

地域の産業を街の魅力創造に活かす①
大学機関との連携による地域活性化事例
モノづくり産業を活かしたおおたオープンファクトリーの実施について
(一般社団法人 大田観光協会)

1. おおたオープンファクトリー実施の背景

大田観光協会は 2003 年に設立されて以降、観光振興においてどのような資源を活用するかについて、大学機関（首都大学東京など）の協力を得て検討を重ねていた。その結果として、金属加工を中心としたモノづくり産業が大田区の主要な資源であるという結論になった。

そこで、モノづくり産業をどのように観光へと活用していくか検討するため、2009 年に観光協会・大学機関が「大田クリエイティブタウン研究会(旧ものづくり観光研究会)」を立ち上げて研究を重ねた結果、オープンファクトリーの実施が持ち上がった。

しかし、オープンファクトリーは地域関係者の間で以前より検討されており、日々多忙な地域の町工場関係者よりいかにして協力を得るかその方法が見つからず、実現には至っていなかった。

2. 産学連携への展開とオープンファクトリーの実現

しかし、その解決への糸口が大学機関との連携により生まれ、オープンファクトリーが実現に向けて動き出した。

具体的には、地元の工業組合である「工和会協同組合」が参加協力をしてくれることとなった。その背景としては学生からの協力による効果が大きかった。例えば、イベントの一部企画では、どのような取り組みを期間中行うか工場関係者と学生が協議する場面や、学生のアイデアを具現化しており、工場側が学生の視点に大きな期待を寄せていることが参加協力の大きな原動力になっている。

こうした効果もあり、2012 年より「おおたオープンファクトリー」が開催され、2018 年までに 8 回行われている継続的なイベントになった。

3. オープンファクトリーが担うモノづくり産業全体の問題解決に向けた取り組み

オープンファクトリーは地域外からの誘客という観光としての取り組みのみならず、地域住民の町工場に対する理解や産業の担い手である若者の雇用創出なども狙った取り組みであり、モノづくり産業が抱える問題点への対応も含まれている。

実際、工場見学・体験には地域住民も多く参加しており、町工場への理解を深めるきっかけとなっている。また、見学者がその後大田区の工場に就職する例も見られている。

<おわりに>

観光をはじめとする地域振興を考える際、大学機関との連携により進められることも多いが「おおたオープンファクトリー」はまさにその成功例といえる。公×民×学の力により、地域内にあらたな連携が生まれ、地域の魅力を引き出し磨き上げるイベント実現に至り、更にはそれをきっかけとして産業の次世代継承へつなげていることは、他地域においても参考になる例と考える。

(地域振興部事業課 亀島)

関連リンク：おおたオープンファクトリーHP <https://www.o-2.jp/mono/oof/>